今月の一品　令和3年3月

桑切り包丁

埼玉の偉人・渋沢栄一を主人公としたNHK大河ドラマ『青天を衝け』では、オープンセットで栄一の家や故郷が広大な空間に再現されています。栄一の家も見事ですが、それ以上に広々とそして青々とした藍や里芋そして桑の畑の風景に目を奪われました。

桑は蚕のエサとなる植物であり、桑畑があることは蚕を育てて繭を得る養蚕を行なっていることの証と言えます。『青天を衝け』でも養蚕のシーンが多々登場していますが、中でも栄一少年の歌に合わせて蚕がダンスをするシーンは、「衝撃的」としてネットをざわつかせました。

物語の舞台は現在の深谷市域ですが、飯能でもかつては盛んに養蚕が行なわれていました。かつて養蚕は、農家にとって貴重な収入源でした。特に、地形や地質の特性により水田による大規模な稲作が難しい地域では、暮らしを支える主要な生業の一つでした。

今回ご紹介するこの包丁は、桑の葉を刻むのに用いたものです。蚕がふ化してからしばらくは、食べやすいように細かく刻んだ桑の葉を与えていました。蚕の食欲は旺盛で、桑が足りなくなると例え夜でも桑を取りに行かねばなりませんでした。また、量だけではなく葉の新鮮さと質も肝心で、しなびた葉を与えると繭の品質が落ちるとされていましたし、濡れた葉を与えると病気になるとされていました。

養蚕は、家族総出の重労働ではありましたが、暮らしを支える貴重な現金収入をもたらしてもくれました。だからこそ手間を惜しまず、蚕のことをまるで我が子のように大切に育てていたのです。

今度、『青天を衝け』で桑畑の光景を見かけたら、渋沢栄一たちを藍と共に育んだ蚕についても思い出していただければ幸いです。